

NS ユナイテッド海運 新造ばら積み船「United Eternity」の見学会を実施
～伊万里港開港 50 周年記念イベント～

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として展開した「船ってサイコ～」をはじめ、海運の重要性を一般、特に青少年に広く認識いただくべく広報活動に力をいれており、また、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運のことを取り上げていただくよう、地元の海事関連施設と組み合わせた見学会等を実施しております。

今般、NS ユナイテッド海運と共催で、名村造船所および伊万里市の協力を得て、10 月 24 日（火）に伊万里港開港 50 周年記念イベントとして、名村造船所にて建造中のばら積み船「United Eternity」の見学会を黒川小学校 5、6 年生を主な対象に開催し、約 50 名が参加しました。

同造船所到着後、全長約 292m、幅 45m の巨大な本船を間近にした小学生からは、その大きさに圧倒され、「大きい」「すごい」など感嘆の声が上がりました。その後、本船に乗り込み、操舵室（ブリッジ）、機関室（エンジンルーム）、船長室、甲板等を見学しました。操舵室では NS ユナイテッド海運 平林船長より航海機器等の説明を受け、「船はどうやって止まるの」「どうして船の位置が分かるの」等質問をしながら興味深く耳を傾けていました。また、甲板では巨大な船倉を目の当たりにし、その大きさ、深さに驚きの声が上がったほか、250m 離れた甲板の両端から「ヤッホー」と呼びかけ合い、船内見学を大いに楽しんでいる様子でした。

また、移動中のバス車内では、「船はどのくらいで出来上がるの」「船のスピードは」「何人位の人が働いているの」等多くの質問があり、平林船長が分かりやすく回答しました。船内見学直後に、船に乗って働きたいか質問した際には、ほぼ全ての参加者の手が挙がり、海運や船員に対する理解が深まる機会となりました。

船内見学後には、伊万里コンテナターミナルにて、日本の貿易量の 99.6% を海上輸送が担っている等海運の重要性や伊万里港についての説明が行われ、海上輸送が生活を支えていることを学んだ後、「伊万里みなとまつり 2017」七つ島会場内にて壁画制作を行い、船が往来する伊万里港の風景を描きました。

当協会は引き続き各自治体や地元企業、会員会社からのご協力も仰ぎながら、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。



▲平林船長の説明に耳を傾ける小学生



▲甲板の両端から手を振り合う小学生